

真のマスターとは何か？

The Holy Fire of ECK, Book 2

[エックの聖なる炎 第2巻] より抜粋

持ち寄りの食事会に参加した数人のエッキストたちが、そこにいた第8段階のイニシエイトたちに質疑応答の公開討論会に参加してくれるように、お願いをしました。そのうちの一つに、「マスターになつたら誰かに話すのですか?」という質問がありました。

その答えは「ノー」でした。ヴァイラギ教団が誰かを彼らの地位に招く頃には、その人は自分の新しい意識状態について他の人に話したいとは思わないでしょう。真のマスターは、神との関係を証明するために他の者の承認を必要とする義務も、その必要性もないのです。実際、そのようなことは、考えてもいないのです。

二つ目の質問が続きました。「どうやって見分けるのですか?」

言い換えれば、もし誰かが第9のイニシエイト(第9の入門者)になったら、人々はどうやってそれを見分けるのでしょうか?

まず謙虚さを見てください。真のエック・マスターは他人の功績を自分の手柄にする必要はないのです。さらに言えば、彼は神の愛のために行われた奉仕に対して、どのように認められる必要はないのです。この為、人間の意識の段階にあるほとんどの人は、真のエック・マスターを完全に見過ごしてしまうのです。人間の本質は、威厳と権力に畏敬の念を抱くものです。謙虚さと愛をもって人生に奉仕するエック・マスターは、そのようなシグナルを他者に発しないのです。ですから、彼は気づかれないのです。

付け加えると、エック・マスターは自分の家を整理された状態に保つでしょう。ひとつには、彼は、負債の重荷を負いません。また、家庭であれ、ビジネスであれ、社会的な場であれ、その環境に秩序と調和をもたらすために静かに働くでしょう。

